

## 第 122 回・日商簿記検定試験 2 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

当座預金	受取手形	売掛金	売買目的有価証券
未着品	未収金	未決算	仮払法人税等
建物	支払手形	買掛金	未払法人税等
社債	建物減価償却累計額	資本金	資本準備金
利益準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	売上
有価証券利息	有価証券売却益	保険差益	仕入
減価償却費	租税公課	社債利息	手形売却損
有価証券売却損	火災損失	法人税等	追徴法人税等

- 増資を行うため、株式 2,000 株を 1 株当たり 900 円の価額で発行し、全額の払込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、会社法が認める最低額を資本金とする。
- 遠隔地にある取引先から注文のあった商品 400,000 円を船便で発送するとともに、取引銀行で船荷証券を担保として代金の 70% の荷為替手形を取り組み、残額は掛けとした。なお、荷為替手形に係る割引料 3,000 円を差し引いた手取金は当座預金とした。
- 平成 21 年 2 月 23 日、売買目的で保有している額面総額 2,000,000 円の社債（年利率 4%、利払日は 3 月末と 9 月末の年 2 回、期間 5 年、償還日は平成 23 年 3 月 31 日）を、額面 100 円につき、95 円の裸相場で売却し、売却代金は端数利息とともに受け取り、直ちに当座預金とした。なお、この社債は、平成 19 年 12 月 12 日に額面 100 円につき、98 円の裸相場で買入れたものであり、端数利息は 1 年を 365 日として日割りで計算する。
- 平成 21 年 1 月 31 日、建物（取得原価：4,000,000 円、減価償却累計額：1,200,000 円）が火災で焼失した。この建物には火災保険 3,000,000 円が掛けられていたので、当期の減価償却費を月割りで計上するとともに、保険会社に保険金の支払いを直ちに請求した。なお、建物の減価償却は定額法（耐用年数 30 年、残存価額は取得原価の 10%、間接法により記帳）により行っており、また決算日は 3 月 31 日（会計期間は 1 年）である。
- 決算にあたって、法人税等の金額 2,000,000 円を計上した。なお、このうち 900,000 円についてはすでに中間納付している。